



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 アルコニックス株式会社

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務本部長

(氏名) 宮崎 泰

TEL 03-5575-2700

四半期報告書提出予定日 平成24年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	174,466	49.5	4,344	57.5	4,483	57.9	2,561	37.5
23年3月期第3四半期	116,679	47.6	2,758	144.3	2,839	167.5	1,862	7.9

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 2,205百万円 (25.3%) 23年3月期第3四半期 1,760百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	403.25	400.78
23年3月期第3四半期	347.13	346.39

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	69,951	13,892	19.3
23年3月期	64,561	12,144	18.4

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 13,492百万円 23年3月期 11,857百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
24年3月期	—	25.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	35.00	60.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	216,000	36.7	4,650	51.1	4,750	60.3	2,650	39.3	417.12

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	6,353,200 株	23年3月期	6,347,800 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	87 株	23年3月期	87 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	6,351,722 株	23年3月期3Q	5,364,412 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(業績予想の記述について)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]の3ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間、及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) セグメント情報等 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(6) 重要な後発事象 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、欧州危機により欧米の景気が減速する一方、中国、インド等新興国においては、期初は高い経済成長を継続したものの、欧米諸国向け輸出の鈍化や金融引き締め政策により景気は減速傾向に転じており、総じて先行きに対する不透明感が強まっております。

わが国経済は、東日本大震災の影響により寸断されたサプライチェーンの復旧が急ピッチで進み、生産活動、輸出は正常化に向かいましたが、昨年半ば以降は世界経済の減速や円高が輸出と生産の減少につながり、緩やかな景気回復にとどまりました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界におきましては、期初に大きく落ち込んだ自動車向けは、サプライチェーンの復旧により回復基調にあります。デジタル家電、半導体向けは5月～7月にかけ夏場の電力需要ピークに備えた在庫積み上げの需要が急回復したものの、8月以降は調整局面を迎え、世界経済減速を背景に需要は減少傾向にあります。一方、建築資材分野においては復興需要が期を通して堅調に推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては、自動車、電子材料向けのレアメタル・レアアースの大幅増加をはじめ、需要が低迷していた欧州向けチタン製品の輸出、及び震災後の復興需要に伴う銅管や黄銅棒等の建築資材関係の取扱いが増加いたしました。利益面においてはレアメタル・レアアース等利益率が高い取扱いの大幅増加により大きく増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高174,466百万円（前年同期比49.5%増）、営業利益4,344百万円（同57.5%増）、経常利益4,483百万円（同57.9%増）、四半期純利益2,561百万円（同37.5%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。

#### ・軽金属・銅製品事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、東日本大震災からのV字回復を目指す自動車分野及び震災の復旧需要のあった建築建材分野がそれぞれ5月以降におしなべて堅調に推移いたしました。一方、エアコン及び半導体分野においては調整局面が顕著になり、さらにユーロ不安、円高、タイの洪水が追い討ちをかけた大型バイク、半導体製造装置、半導体用材料、エアコン用材料の取扱いが減速いたしました。利益面ではエアコン向け材料輸出の落ち込みと連結子会社での通信機器及び半導体製造装置向け部品の落ち込みなどの要因により減益となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は51,396百万円（前年同期比6.4%増）、セグメント利益は848百万円（同27.8%減）となりました。

#### ・電子・機能材事業

自動車、半導体、二次電池の需要動向は、各分野別にばらつきがより顕著になり、スマートフォン、タブレット端末関連はアジア等新興国を中心に引続き堅調に推移しておりますが、長引く円高や欧米の景気後退により、太陽電池、PC及び車載用二次電池等々には翳りが見えます。また熱交換器用チタン製品、化学プラント向けニッケル製品等の輸出は一旦回復したものの、先行きには不透明感が出てきております。

一方、レアメタルの取扱いにおいては、自動車、IT関連向けを中心にレアアース、タングステン等が大きく増加いたしました。特に価格が高騰したレアアースにおいて、昨年度既契約分の納入が当上半期に集中したこと、また今期に入ってからの大口取引の受注が寄与したことにより、大幅な増収増益となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は98,013百万円（同125.2%増）、セグメント利益は3,419百万円（同135.8%増）となりました。

#### ・非鉄原料事業

震災後の自動車メーカーの減産の影響を受け、自動車用アルミ二次合金塊の材料であるアルミ屑、ベースメタルなどの販売が落ち込みました。加えて、輸出の不調で鉄鋼業の生産調整が行なわれたことにより、鉄鋼用脱酸材料の販売も低調に推移いたしました。一方、アルミ輸入合金地金、化学品用の金属珪素、軽金属圧延用のマグネシウム地金の販売は前年同期に比べ増加いたしました。全体の落ち込みをカバーするに至らず、当セグメントにおける当第3四半期連結累計期間の売上数量、売上金額は共に前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は19,801百万円（同2.1%減）、セグメント利益は130百万円（同50.1%減）となりました。

#### ・建設・産業資材事業

当セグメントにおいては、第2四半期連結累計期間に引続き、東日本大震災後の建設産業資材の入荷不安や今後の復興に伴う需要増期待から、国内問屋筋及びユーザーからの配管機材類の受注が増加いたしました。また、アジア、中東諸国向け配管機材、及び銅合金素材の海外取引も堅調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は10,565百万円（同45.3%増）、セグメント利益は83百万円（前年同期は36百万円の損失）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### ①財政状態

#### a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は64,080百万円であり、前連結会計年度末比5,450百万円の増加となりました。主な内訳は取引の増加等に伴う受取手形及び売掛金の増加7,394百万円、現金及び預金の増加1,286百万円、及びたな卸資産の減少1,547百万円であります。

#### b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は5,870百万円であり、前連結会計年度末比60百万円の減少となりました。主な内訳は有形固定資産の増加232百万円、無形固定資産の減少123万円、及び投資その他の資産の減少169百万円であります。

#### c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は50,324百万円であり、前連結会計年度末比4,168百万円の増加となりました。主な内訳は取引の増加等に伴う支払手形及び買掛金の増加2,029百万円、見合いの運転資金調達に伴う短期借入金の増加1,899百万円、及び固定負債から振替えた一年内返済予定の長期借入金の増加486百万円であります。

#### d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は5,734百万円であり、前連結会計年度末比526百万円の減少となりました。主な内訳は流動負債へ振替えたことに伴う長期借入金の減少397百万円、及び社債の減少100百万円であります。

#### e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は13,892百万円であり、前連結会計年度末比1,747百万円の増加となりました。主な内訳は新株予約権の行使に伴う資本金及び資本剰余金の増加がそれぞれ4百万円、利益剰余金の増加2,085百万円、その他有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の減少290百万円、及び繰延ヘッジ損益の減少131百万円であります。

### ②経営成績

#### a. 売上高

主な売上高の増加要因は、自動車及び半導体用途のレアアース、タングステン等レアメタル、自動車エンジン部品用途のアルミ再生塊、欧州における化学プラント等のチタン製品、及びチタンスポンジ等の取引増加であります。一方、主な減少要因は二次電池材料向けニッケル粉末、及びアルミスクラップの取引減少であります。総じて電子・機能材事業における取引増加が当社グループにおける売上高を押し上げたことにより、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比49.5%増の174,466百万円となりました。

#### b. 売上総利益

当社及び国内連結子会社の一部における収益が売上総利益の増加に貢献いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比33.9%増の8,592百万円となりました。

#### c. 販売費及び一般管理費

人件費及び貸倒引当金繰入額の増加に伴い、当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比16.1%増の4,247百万円となりました。

#### d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比57.5%増の4,344百万円となりました。

#### e. 営業外収益、営業外費用

外貨建決済取引に係る為替差益の増加により、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は138百万円の収入となりました（前年同期は81百万円の収入）。

#### f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比57.9%増の4,483百万円となりました。

#### g. 特別利益、特別損失

固定資産売却益及び新株予約権戻入益の合計1百万円を特別利益として計上する一方、連結子会社における新株予約権の行使により当社の議決権比率が低下したことによる持分変動損失8百万円、及び今期に予定している本社移転関連費用26百万円を特別損失に計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益4,444百万円から法人税等1,774百万円、国内及び海外連結子会社3社における少数株主利益109百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比37.5%増の2,561百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの主要取引先である自動車、家電、IT産業向けレアメタル・レアアースを中心とした電子・機能材料分野の取扱いが、当第3四半期においても大口取引の受注により高水準にて推移し、連結業績全体を押し上げる結果となったことから、平成23年8月4日に公表した通期業績見通し数値を修正いたします。

(平成24年3月期通期連結業績予想)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	203,600	4,620	4,400	2,300	362 14
今回発表予想 (B)	216,000	4,650	4,750	2,650	417 12
増減額 (B-A)	12,400	30	350	350	
増減率 (%)	6.1	0.6	8.0	15.2	
(ご参考) 前期実績 平成23年3月期	157,979	3,077	2,963	1,901	339 31

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ・税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### ・会計方針の変更

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる影響はありません。

#### 【追加情報】

#### ・会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,340	9,627
受取手形及び売掛金	27,228	34,622
商品及び製品	20,044	18,466
仕掛品	40	69
原材料及び貯蔵品	10	11
その他	3,181	1,622
貸倒引当金	△216	△339
流動資産合計	58,629	64,080
固定資産		
有形固定資産	2,900	3,133
無形固定資産		
のれん	26	17
その他	431	316
無形固定資産合計	457	333
投資その他の資産	2,573	2,403
固定資産合計	5,931	5,870
資産合計	64,561	69,951
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,656	24,685
短期借入金	17,669	19,569
1年内返済予定の長期借入金	1,909	2,395
1年内償還予定の社債	380	200
未払法人税等	1,234	1,113
賞与引当金	388	401
その他	1,917	1,959
流動負債合計	46,155	50,324
固定負債		
社債	800	700
長期借入金	4,587	4,189
退職給付引当金	220	236
役員退職慰労引当金	97	119
長期未払金	29	33
その他	527	455
固定負債合計	6,261	5,734
負債合計	52,416	56,058



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,826	2,830
資本剰余金	1,868	1,872
利益剰余金	7,234	9,319
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,929	14,023
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	78	△212
繰延ヘッジ損益	34	△96
為替換算調整勘定	△184	△221
その他の包括利益累計額合計	△71	△530
新株予約権	44	44
少数株主持分	242	355
純資産合計	12,144	13,892
負債純資産合計	64,561	69,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	116,679	174,466
売上原価	110,264	165,874
売上総利益	6,415	8,592
販売費及び一般管理費	3,657	4,247
営業利益	2,758	4,344
営業外収益		
受取利息	6	6
仕入割引	15	19
受取配当金	45	41
為替差益	234	322
不動産賃貸収入	34	36
その他	56	46
営業外収益合計	392	474
営業外費用		
支払利息	184	213
売上割引	7	19
手形売却損	35	38
不動産賃貸原価	11	10
その他	71	53
営業外費用合計	311	335
経常利益	2,839	4,483
特別利益		
固定資産売却益	0	1
貸倒引当金戻入額	16	—
新株予約権戻入益	1	0
関係会社清算益	32	—
受取保険金	367	—
特別利益合計	417	1
特別損失		
本社移転費用	—	26
投資有価証券評価損	17	—
持分変動損失	—	8
その他	0	5
特別損失合計	17	40
税金等調整前四半期純利益	3,239	4,444
法人税等	1,324	1,774
少数株主損益調整前四半期純利益	1,915	2,670
少数株主利益	53	109
四半期純利益	1,862	2,561

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,915	2,670
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63	△290
繰延ヘッジ損益	△32	△133
為替換算調整勘定	△59	△40
その他の包括利益合計	△155	△464
四半期包括利益	1,760	2,205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,703	2,102
少数株主に係る四半期包括利益	56	102

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	48,101	42,648	19,769	6,160	116,679
セグメント間の内部売上高又は振替高	203	873	448	1,111	2,636
計	48,304	43,521	20,218	7,271	119,316
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,175	1,449	262	△36	2,851

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,851
セグメント間取引消去	△12
四半期連結損益計算書の経常利益	2,839

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	50,974	96,494	19,309	7,689	174,466
セグメント間の内部売上高又は振替高	422	1,518	492	2,876	5,310
計	51,396	98,013	19,801	10,565	179,777
セグメント利益	848	3,419	130	83	4,482

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,482
セグメント間取引消去	1
四半期連結損益計算書の経常利益	4,483

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

当第3四半期連結会計期間

(自 平成23年10月1日

至 平成23年12月31日)

(上海龍陽精密複合銅管有限公司の株式取得について)

当社は、平成24年1月24日開催の取締役会において、株式会社中央物産から上海龍陽精密複合銅管有限公司の発行済株式の25%全てを平成24年3月初旬に1,190百万円で取得することを決議いたしました。この株式取得により同社を持分法適用関連会社とする予定であります。

上海龍陽精密複合銅管有限公司は年間5万トン以上の生産能力を有する、空調冷凍用精密銅管を製造する銅管メーカーであります。当該会社は世界最大の生産規模を誇る精密銅管メーカーの金龍精密銅管股份有限公司の固有技術を継承し、さらに日本の品質管理手法を導入しており、上海地区における中国及び日系電機、空調メーカー向け販売の他、一部日本向け輸出を行っております。

今回の株式取得の目的は当該会社の製品販売を通じた新たな商流の創出であります。またこれに加えて金龍グループとの関係強化による今後のグローバルな銅管取引の拡大を図るとともに、当社の中期経営計画に掲げるアクションプランの「営業収益力の強化、投資案件の推進」を推し進め、今後の業容拡大や連結収益の獲得を図ります。

なお、本取引は中華人民共和国商務部等の監督官庁からの承認が得られることが必要であります。また本件のための資金は自己資金及び借入金で賄う予定であります。